

## 生方氏への質問と回答

Q1. 先人の研究を全て継続していくと、後進は継続研究で埋もれてしまいます。継続すべき研究と終わりにする研究の仕分け方法はありますか？

A. 御質問ありがとうございました。確かに全ての研究を継続することは無理がありますし、不可能と思います。また、今後どの研究が重要となるか、重要でなくなるかは、ある程度は見通せてもなかなか確実には予測できないものです。研究の現場から去る者として、担当したどの研究も、後の方々が継続する必要性が生じたときに継続できるような状況にしておきたかった、という趣旨でお話しさせていただいた次第です。

Q2. アカエゾマツやトドマツの人工交配はどれくらいの樹齢、大きさの木で行なわれたのでしょうか？これらの樹種で人工交配を実施できたことに興味がわきました。

A. 御質問ありがとうございました。トドマツもアカエゾマツも人工交配は、我々の林木育種センターの先輩である河野耕蔵さんが行ったものです。トドマツの人工交配は1981年に岩内町にある国有林の発足採種園で行われました。当時の樹齢は、15年生前後で、樹高の記録はありませんが多分3~5m程度と思われます。アカエゾマツの人工交配は1983年に上川町にある国有林の清川採種園で行われました。当時の樹齢は、15年生前後で、樹高の記録はありませんがこちらも多分3~5m程度と思われます。

Q3. ミズナラの戻し交配を行った場合の異常が非常に多いことに驚きました。ミズナラは中絶などのメカニズムもあると思うのですが、種子の出来具合からも違いがあったりしたのでしょうか？

A. 御質問ありがとうございました。種子(堅果)の結果率(成熟堅果数/雌花数)につきましても下図のように、近交係数0.25の交配は、近交係数0に比べ30%以上の減少がみられ、有害な潜性(劣勢)遺伝子のホモ化等による成熟途中での死亡があったと考えられます。ただ、堅果の落下プロセス(成熟の

どの過程（時期）で落下したか）は調べてなく、残念です・・・。

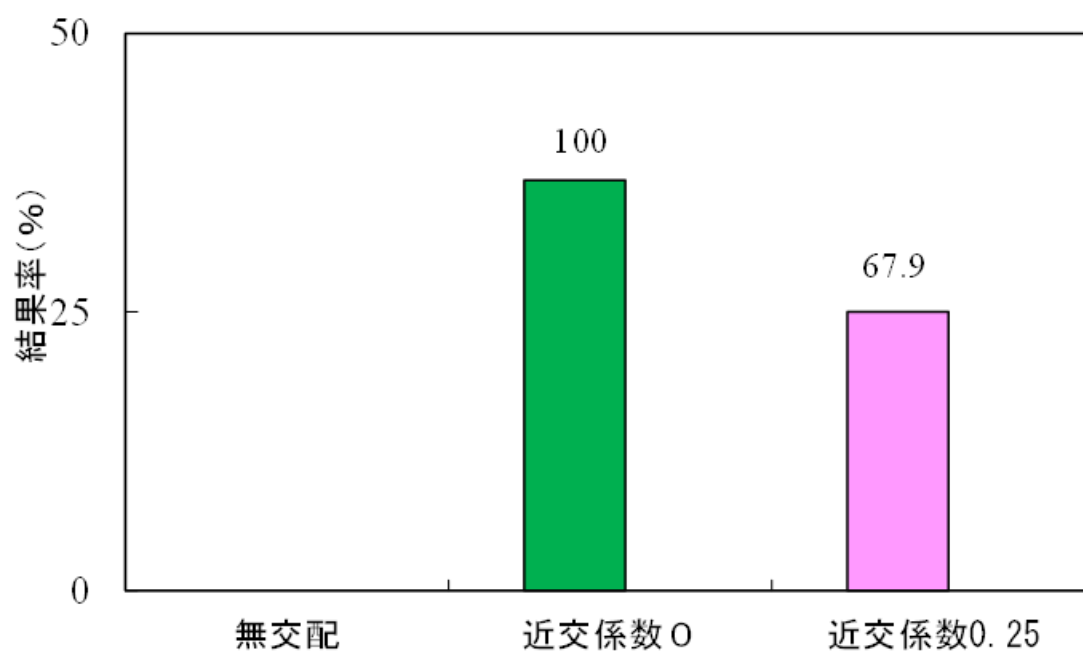


図 近交係数別成熟堅果の結果率

棒グラフ上の数字は、近交係数0の結果率に対する割合を示す。